

大きな変化が起こるタイミングだからこそ、
「ロールモデルは、もういない」

型破りな少女が、都市計画に魅了されるまで

幼少時代は、とにかく破天荒で変わっていたように思います。小学校3年生の頃は自分で企画したスクー
ルで、同級生を集めてお互いの得意なことをマッチン
グしたり、みんなで登山にチャレンジしたり、スキー
が苦手な子にはスキーを教えたりしていました。

そんな型破りで勉強もあまりしていない子供でした
が、高校で出会った大好きな先生の影響で数学が好き
になりました。その先生から勧められて理工学系の進
路を色々調べていた時、都市計画の分野が目にとまっ
たんです。私の出身地である北海道・小樽市は、運河
紛争など都市計画領域で有名な街。馴染みのある分野
だったことから、大学では都市計画を専攻しました。

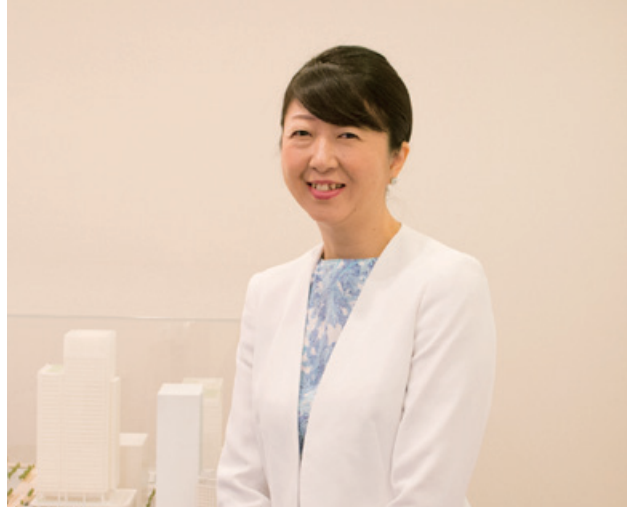
大学では交通工学のゼミに入りましたが、学問以上
にテニス部の活動に打ち込んでいました。練習と勉強
だけのストイックな毎日でしたが、都市計画に携わり
たいという想いはずっと持っていて、就職活動でひと
きわ魅力を感じたのが三菱地所でした。一般的に都市
計画は行政が中心となっていくイメージがあります。世
界を見渡しても、ニューヨーク、ロンドン、フランク

フルトなど、国の経済の中心地は行政が開発を手掛け
ています。しかし日本を代表する丸の内という街は、民
間デベロッパーである三菱地所が手掛けてきたのです。
しかも、何もない荒れ野原だった場所から。この会社
でなら、国の未来を創造していく行政の感覚と、民間
企業の合理性や効率性の両方が身に付けられると考え、
志願しました。1993年当時は、まだ女性総合職が
珍しい存在。三菱地所でも転勤ありの女性総合職は私
が2人目でした。

**新たなビジネスへのチャンスをつかんだ、
ターニングポイント**

キャリアを通して一番の転機となったのは、入社5年
後にプロパティマネジメント（不動産における運営管理業
務）を担うグループ会社に向向して担当したプロジェクト
との出会いです。プロパティマネジメントという
竣工後の仕事に見えますが、実は竣工前から効率的な
管理の導線を検討して予め設計に組み込んだり、管理
コストを抑えつつ、安全・安心な建物をつくる上で様々
な工夫や仕組みを組み込む開業準備業務があります。特
に私が手掛けた山王パークタワーは、延床面積21万





河野安紀(こうの・あき)

三菱地所株式会社 人事部 専任部長
採用・育成・人権啓発・ダイバーシティ推進ユニット ユニットリーダー
現筑波大学 理工学群 社会学類 都市計画主専攻 卒
現早稲田大学 大学院経営管理研究科ファイナンス専修(MBA) 修了

北海道小樽市出身。1993年4月三菱地所入社。都市計画事業室(現・開発推進部)にて、大手町・丸の内・有楽町エリアマネジメントに携わる。1998年、プロパティマネジメントを手掛けるグループ会社に出向し、大規模ビルの開業準備や運営管理を経験。2004年より10年間、オフィス関連のコンサルティング等を担当。2014年4月、人事部へ異動。これまでの現場経験を活かし、未来を担う人財の採用・育成に取り組んでいる。キャリアを築きながら国内の大学院に通いMBAを取得。産休・育休を2回取得。趣味は洋裁。

90000平米で当時としては日本最大級のオフィスビルでしたから、検討すべき項目が複雑かつ多様でした。このプロジェクトでの4年間の経験を生かし、大規模複合開発の開業準備を進める上で、どのような業務を、どのような手順で進めるのが最も効率的なのか、一連の業務をフロー化し、見える化を自分でしています。この取り組みは期せずして社内業務効率化のアイデアコンテストで最優秀賞を受賞するに至ったのですが、それ以上に「新しいものを自らどんどん作っていいんだ」という、大きな自信につながり、これが転機となりました。

自信が芽生えると同時に考えたのが、「このノウハウを社内だけでなく、広く外に出してビジネスにしたい」ということでした。そこで、企業や大学に効率的なブ

も社外にも頼れる相談相手を沢山つくることでしょうか。これからは会社の垣根もより低くなり、色々な人とつながることがより一層大事になってくるでしょう。ですから、好奇心に蓋をせず、興味関心を広げていくことが何より大切なように思います。

自分の道は、自分でつくる

今でこそ当社も女性総合職がどんどん増えていますが、私が入社した当時は「女性＝一般職」が当たり前な時代でした。転勤や出向はもちろん、出張すら男性と同じようにしていませんでした。大学までは男女で区別を受けた経験がなかったのに、社会に出たらこんなにも違う。現実を目の当たりにして驚くと同時に、腹立たしさも覚えました。「この分厚いガラスの天井をい

つか壊してみたい」と。とはいえ、反発しても状況は変わりません。そこでまずは環境に同調し、「男性と同じように働き、付き合う」ことで、市民権を得ていたのです。

しかしこれから社会に出る学生の方々は、そんなシラカンスみたいな先輩女性をお手本にする必要はありません。今、世の中は急速に変わっています。テクノロジーの発展、イノベーションの進展、働き方の変革。今は、私にとって、まるで明治維新みたいに新しい国ができていくワクワク感があるんです。そんな時代だからこそ、一人ひとり違っていいと思います。だから、周囲に同調して埋もれるのではなく、自分で考え、自分の思いをしっかりと自分の言葉で発信する強さ、前向きに建設的にぶつかる勇気を持ってください。完璧な「ロールモデル」を求めるのではなく、失敗してもいいから色々な冒険をして、自分で自分らしい道を拓いていくて欲しいし、そんな皆さんを心から応援しています。

三菱地所株式会社

三菱地所は100年以上の歴史の中で、東京丸の内地区一帯を日本経済の中心へと育て上げてきました。丸の内以外でも、ランドマークタワーが象徴的な横浜みなとみらい、梅田駅北側のグランフロント大阪など、総合デベロッパーとして、国内各所の「まちづくり」を牽引しています。また、グローバル展開も進めており、アメリカ、イギリス、アジア各国で積極的に事業を展開しています。